

衣食住

— 着る、食べる、住む —

療養所での生活は自由のない、きびしいものでした。

入所すると、まず服や持ち物を取り上げられて、自分は消毒液を混ぜたお風呂に入らなければなりませんでした。

そのあいだに、持ち物は全部調べられて、消毒されました。

お風呂から出ると、決められた色・もようの着物や、誰かが使っていた食器などをわたされました。家族が差別にさらされないように、名前を変えさせられることもありました。

療養所から逃げ出さないように、持ってきたお金はとりあげられ、「園内通用券」と呼ばれる、療養所の中でしか使えないお金に換えさせられました。



園内通用券 逃走を防ぐためとして現金は取り上げられました
(多磨全生園 1952年まで使用)

部屋は、何人かが一緒に住む雑居で、性別や年齢、病気の進みぐあいなどによって分けられていました。